

2017年度 世界展開力強化事業  
中南米との大学間交流プログラム（短期留学）帰国報告書  
メキシコ チャピンゴ自治大学

国際食料情報学部・食料環境経済学科・2年 41716219 村山 豊

今回の短期留学への当初の主な目的は、将来の可能性拡大、異文化コミュニケーションをとる、そして自身の専攻である海外のフードシステムの構造を実際に見る、この3つであった。実際にメキシコへ2週間留学したことによって、日本では得られることのできない様々な経験を得ることができ、目的達成の重要な要因となった。

現地での貴重な経験として、メキシコの農場を見学できたこと、現地の食料経済についての授業を聞いたこと、メキシコ人の家にホームステイできたこと、チャピンゴ自治大学やメキシコの生徒と交流ができたこと、ほかにも数えきれないくらいのことがあったが、この4つについて主に述べていきたい。

貴重な経験として1つ目。メキシコに到着して6日目、7日目は泊まり込みでpuebla州のメキシコの農業を見学しに行った。これはチャピンゴ大学の日本語教師である穂積先生が計画を立ててくださった。約4時間かけてバスで行った。チャピンゴ大学があるtexcocoという町は標高2253mであるのに対し、目的地が標高500mであり、気候・地形もそれに従い変化するため、車内から見る道中の農地の使い方がとても興味深かった。はじめは平地が多かったので大規模なトウモロコシ畑、進むにつれて気温が上がり、熱帯気候になりうっそうとした森が増え、コーヒー・バナナ・柑橘畑など標高が下がるにつれて増えていき日本ではあまり見ることのできない標高、気候帯の変化による農地の変化を見ることができた。現地では、まずコーヒー畑を見学させてもらった。ここはメキシコ湾からの湿気が山にぶつかり、雨もよく降り、程よい高地というコーヒーを栽培するのに適している土地であるらしい。ここの農地は大規模ではなかったが、収穫期には周りの閑散期の農家を雇って収穫し、逆に周りの農家が収穫期になると雇われ収穫の手伝いをするらしい。次に向かったのは中規模柑橘農家で、ここではオレンジとレモンを育てていた。日本と違い通年で柑橘類を育てられるため、安定した収益を得られる仕組みである。オレンジは有機栽培をしているらしいが、有機栽培をしていないレモン畑と距離がなくどのように分けられているのかは疑問的だった。次に女性によるバニラの生産組合。図らずも6次産業化を目指していてこのように6次産業化が自然とできてゆく過程を直に見ることができて感動した。メキシコの生産組合は地区ごと、作物ごとにあり少量の収量でも組合でまとめるため市場に出しやすくなるという、ラテンアメリカの農法である単一作物だけを育てるのではなく、様々なものを一緒に育てるといった農法に適していて、とても効率的な体系だなと感じた。これはこれからの日本農業で活用できる制度であると思う。最後に中規模バナナ農家。ここでは1年後期で履修した「ラテンアメリカ農業論」で学んだ一つの農地に様々

なものが栽培されていて、場所によってはアグロフォレストリーになっているということを感じて確かめられたので良い経験になった。今回のメキシコの農業を見学した際にフードシステムを生産者側から理解するために生産から流通までのことを主に質問し、理解を深めた。(写真①)

貴重な体験2つ目。8日目にチャピngo大学でメキシコの食料・農業経済について聞いた。この授業は全編英語で行われたが、予備知識を含めて大半の部分を理解することができた。大筋としてはNAFTA締結以前と以後でのメキシコ農業の変化であった。まずメキシコの基本情報としてメキシコの人口は1.25億人と日本の人口1.27億人と大差ないのに対し、15パーセント近い。それに対しGDP比に対し3パーセントと伝統的農法で小規模でやっている農家が多い。もちろんNAFTAが締結した結果農業面で良い影響を残したところもあるが、悪い面もある。NAFTA締結されてから農作物に関税がかけられなくなり、稼げなくなってしまったため、若い農業従事者がアメリカへの移民となってしまう高齡化、女性と高齡者が残り、衰退が進みゴーストタウン化が進んでいるところもある。もともとメキシコ原産の作物としてアボガド、チリ、トウモロコシ、サトウキビ、ポテトなどがありアボガドは世界1位の生産を誇っている。しかしトウモロコシなどは食用を国内でまかなえているが、飼料用のものはアメリカから輸入に頼っている。メキシコ国土はほとんどが砂漠であるが、まだ30000ヘクタール程度まだ耕せる土地があり、未来はある。現在問題となっていることが移民としてアメリカへ行った人たちの子供のアメリカでの市民権がトランプ大統領の発令する法律によっては奪われてしまう恐れがある。それに伴い移民がメキシコに戻ってくる可能性があり、その場合全員に仕事を与えることが困難になると予想される。この授業で驚いたのが1次産業従事者の高齡化の要因が移民として他国に行くという日本では考えられないことが要因で固定観念に縛られてはだめということをもっと感じた。この授業は自分の専攻に近いということもあり、とても興味を持って聞くことができ、質問の時間がなかったのは残念だったが、もっと詳しい話を聞いてみたいと思った。

貴重な体験3つめ。11日目にインターンシップとして日本野菜を育てているエドムンドさんという農家さんのお宅に泊まった。もちろんメキシコの農業を体験でき、メキシコで生産から流通までの過程を一部見ることもできたという点でも貴重な体験だったのだが、片言でしかスペイン語を話せない状況で辞書を片手にボディランゲージも使いながら、四苦八苦しながら1泊しお父さんとコミュニケーションをとれたというのはとても大きく、貴重な体験だったと思う。4日間あったインターンシップの内容としては初日、2日目は日墨教会のあるメキシコシティで日本庭園の歴史の説明、庭園の簡単な管理、メキシコと日本との歴史の説明などをおこなった。メキシコと日本との歴史はほかの南米諸国より古く、農大の建学の祖、榎本武揚がメキシコへ向かわせた榎本殖民団の行いがメキシコでの日本人のイメージのもととなっているため尊敬されているということを説明では聞いた。ほかにも日墨教会の会長さん方とお食事をしてメキシコでの生活ぶりなどとてもためになる話を聞いたりもした。インターンシップでお世話になった農大の卒業生、土屋さんが日

本食レストランを経営しているつながりで3日目、4日目は先述した通り、農家さんの下で農作業をしつつ、フードシステムの一部を実際に見ることができた。このインターンシップで将来の可能性拡大として、メキシコで働く人たちのメキシコの現状・未来についての話を聞き将来の選択肢が広がった。それと、農家に一泊し、主にスペイン語を使う生活で異文化コミュニケーションを図れた。この二つのことが今回の経験で目的達成のために活動したことである。(写真②)

貴重な体験4つ目。現地の大学生との交流である。基本的どこへ行くにも同行して、スペイン語がほぼわからない私たちにスペイン語の解説を英語に翻訳してくれたRosaや様々なパーティーを企画し、たどたどしいスペイン語に付き合ってくれたチャピングの学生。本当に見知らぬ日本人に対してみな親切で、国々の常識など、様々なことについて話し合った。絶対に日本に来た留学生には親切にしてあげようと思った。メキシコの大学生との異文化コミュニケーションによって視野がとても広がり、常識にとらわれてはいけな

いと感じた。

(写真③)

今回の目的は、現地でのとても貴重な数々の体験によってほぼ達成したといえる。将来の可能性は想像していた以上に広がった。異文化コミュニケーションは積極的にメキシコの人と話しかけてくることもあって、多少受け身であったかもしれないが英語、そして少しのスペイン語でコミュニケーションをとれた。今度はもっとスペイン語を勉強し、言いたいことの8割伝えられるようにする。フードシステムは生産組合など日本には少ないものを見ることができ、おおむね満足だが、もっと販売面、市場などを見に行けばよかった。

留学を踏まえた今後の取り組みとしては、現地で会った一年間留学中の目標に向かって学んでいて、スペイン語でチャピング大学の生徒と楽しそうに交流している先輩方の姿にあこがれ、メキシコというこれから大きく変わってゆくであろう国の農業・食料をもっと深く学びたいと思ったので、3年の夏、もしくは4年の夏に1年間チャピング大学へ留学し、メキシコ農業経済についての授業を履修したいと思っている。そのためにスペイン語を日常会話程度まで話せるようになり、日本の農業・食料経済についてもっと学んでいく。

プログラムへの要望としては生産の部分だけでなくフードシステムとして下流の部分も見なかったこと。個人個人に課題、目標があると思うので危険が伴うが一人一人にプランニングさせ、行きたいところに行き体験するのもいいかもしれない。それ以外は今回の形でいいと思う。2週間弱ではできることも限られていて、自由時間を増やしてもあまり意味がないと思うので、今回のような過密スケジュール気味の予定のほうが短い期間でメキシコを堪能することができると思う。もう一つ、今回補助金があったというのも中南米に行こうと思った大きな要因であったのでこれからもこの取り組みを続けてほしいと思う。

最後に。メキシコが自身初めての海外だったが、アートにあふれていて、家もカラフルで、過ごしやすい気温で、標高の違いによる変化が大きく、陽気なこの国が初めての海外

でよかったと思う。まさかメキシコに来ても大地震に遭遇するとは思わなかったが、本当に今回の経験は今まで生きてきた中でもとても大きいものとなった。留学でなくても旅行としてでもまた行きたいと思う。

写真①



写真②



写真③

